

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A:十分達成できている C:やや不十分である
 B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校通信制
-----	----------------

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を充実させ単位修得の向上につなげることができている。 ・生徒の進路を意識させるとともに進路実現に努める。 ・多様性を認め他者への尊重と他者との協力はできている。スクーリング時の挨拶運動は続けていきたい。 ・働き方改革に基づいた業務の効率化はできており、負担が偏らないよう業務を行っていきたい。
------------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	県内唯一の公立通信制高校として、生徒一人一人の可能性に応じた学びの場を提供し、各自が身に付けた体験や経験を、将来の自分の在り方・生き方に活用できる生徒を育成する。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校卒業資格を得たい」という強い意志を持った生徒を求めます。 ・失敗を恐れず挑戦することや最後まであきらめず努力する意気込みのある生徒を求めます。 ・自由と責任を両立させ、目標に向かって主体的に取り組む意欲のある生徒を求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を大切にするとともに、多様な教科を開設する単位制のメリットを生かして、個別最適な学びを実現します。 ・キャリア教育を推進し、生徒それぞれの希望・能力・適性に合った進路実現を支援します。 ・外部講師による講話など、多様な価値観に触れる活動を実施・奨励します。 ・教科指導や部活動、学校行事などを通して、命を大切にすること、寛容性、協調性を養います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を大切にするとともに、多様な教科を開設する単位制のメリットを生かして、個別最適な学びを実現します。 ・キャリア教育を推進し、生徒それぞれの希望・能力・適性に合った進路実現を支援します。 ・外部講師による講話など、多様な価値観に触れる活動を実施・奨励します。 ・教科指導や部活動、学校行事などを通して、命を大切にすること、寛容性、協調性を養います。

4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びにより学力向上を図り、単位の修得、高校卒業につなげる。 ・生徒の希望進路を把握し、情報を提供しながらより良い進路実現に努める。 ・多様性を認め自分も人も大切にすることや協調性を養い、社会的自立と将来の社会の形成者としての自覚を促す。 ・働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を整える。
------------	--

5 重点取組内容・成果指標 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価				
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果			
●学力の向上	○進学学習会や就職対策の強化	○進学学習会の出席率60%以上、就職対策講座を開講して充実させ、出席率60%以上。	・「樟蔭」やスクーリング連絡、進路説明会等を通して、学習会や就職対策講座の広報活動を行う。 ・キャリア教育講演会による、進路意識の向上を図る。	A	・就職希望者については、学校を通じた就職希望者の内定率は88%である。 ・進学学習会については、夏ごろから減りだし、最終的に1名となり、今後進学学習会の在り方を検討する必要がある。進学希望者の合格率は97%である。 ・現在も生徒の進路実現に向け継続的に指導している。	A	・進学学習会への参加の減少は、確かの気がかりだが、進学希望者の合格率を知るに自学・自習が出来る生徒が増加している表れでもあると感じられる。また、就職希望者の内定率の高さを知り、指導力の高さを察してできる。	学習指導 進路指導
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○スクーリングには楽しく参加できていると答えた生徒が80%以上 ○挨拶や服装に気を遣っていると答えた生徒が70%以上	・生徒会による朝の挨拶運動を実施し、服装について高校生としてのモラル意識の向上を推進する。 ・学校生活については、自ら学び、意欲的に行動できる生徒の育成を推進する。	A	・スクーリング時の朝の挨拶運動については生徒会役員を中心に実施できた。1時間目に授業があるにもかかわらず、生徒会役員はよくやってくれていると思う。 ・スクーリングには楽しく参加できていると回答した生徒は85. %だった。 ・挨拶や服装に気を遣っていると回答した生徒は、ともに86%だった。	A	・朝の挨拶運動は在校生、私も経験があり、生徒会中心とはいえ、根付いている事は誇らしい。通信制という構造上、まとまって行動していくのは難しくなっていくと思うが継続して欲しい。	生徒指導 保健・教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの重大案件数を0件とする。 ○学校は、いじめの早期発見、早期対応体制の充実に取り組んでいると答えた生徒が70%以上	・いじめアンケートの実施(前期1回、後期1回) ・HRや学校行事等でのいじめ撲滅について啓発活動を行い、生徒間の意識の共有を図る。	A	・1月のスクーリングでいじめアンケートを実施した。気になる生徒には迅速に対応した。 ・早期発見・早期対応体制の充実に取り組んでいると回答した生徒は94. 2%だった。	B	・中間報告では、いじめは無かったとあるが多少の事は生徒間であるのではないかと、より一層のアンテナ張り目を望む。表に出てこない時が、一番やっかいだと懸念している。	生徒指導 保健・教育相談
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「講演を聞いて、郷土の価値を再認識することができた。どちらかというとき」と回答した生徒70%以上 ★郷土の人材を活用した講演会を年1回実施	・今年度は6月下旬に講演会を実施予定。生徒に早めに広報し、「佐賀語」を利用し事前の学習を呼びかける。	A	・「講演を聞いて、郷土の価値を再認識することができた。どちらかというとき」と回答した生徒は93%で、目標を達成することができた。 ・ふるさとへの誇りや愛着を感じると回答した卒業予定者は78%だった。	A	・手段として、講演会実施は意義がある。活動としては、限定的に思うが課外授業の程でも仕事見学や外部と交流したりと調整できれば尚の事良い。	教務
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●交通ルールを守ることができたと答えた生徒が90%以上	・生徒指導講話での交通安全意識啓発。 ・許可申請による自家用車登校生徒の把握。 ・HR時の呼びかけによる安全意識の向上。	A	・交通ルールを守ることができたと回答した生徒は95. 7%と多くの生徒が交通ルールを守ることができた。	A	・継続して取り組んでおられる成果が数字の上にも表れている。大きく捉えれば未来を担う生徒の安心で安全の意識づけにもつながり喜ばしい限りである。	保健・教育相談
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・ICTの活用による業務の効率化 ・スクーリングの振替日の弾力化 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定	A	・4月～1月までの平均時間外在校等時は、14時間39分となっており、時間外在校等時間の上限も遵守できている。 ・年次休暇を14日以上取得できた職員は、26名中14名であった。	A	・今年度は労働基準法が約40年ぶりに大幅改正される見通しで、より厳しい労働者保護を念頭に今後も検討して頂きたい。	管理職
●特別支援教育の充実	○生徒の状況に応じた支援・配慮を実践する	○年に2回、生徒に関する情報交換会を実施する。 ○特別支援教育に関する研修会を実施する。	・4月と9月に共通理解が必要な生徒の情報交換会を実施し、適切な支援ができるようにする。 ・研修会を実施し、教職員の特別支援教育に関する理解を深める	A	・9月にも支援・配慮が必要な生徒の情報連絡会を実施し、後期入学生についても職員間で共有を図った。今年度も年2回の生徒に関する情報交換会を実施することができた。	A	・情報交換会が年2回行われた事は評価に値する。 ・今後共、一人ひとりに寄り添った取り組みを期待したい。	保健・教育相談
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果			
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★単位修得率の向上	○前年度の単位修得率87%(4年90%、3年90%、2年86%、1年82%)の維持・向上	・スクーリングへの参加を呼び掛ける ・「学習のしおり」、「樟蔭」、「はなまる連絡帳」の有効活用 ・ホームルームへの参加を促し、学習状況を連絡する	A	・「はなまる連絡帳」や「樟蔭」などを通して、生徒との連絡を密にすることで、レポートの提出やスクーリングへの参加を促すことができた。	A	・「はなまる連絡帳」アプリの活用は、時代に沿った取り組みで、学校の対応力を窺い見ることが出来る。 ・樟蔭は連携強化に不可欠なツールであり、素晴らしい活用だ。	教務 学習指導

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担当の丁寧な指導と、はなまる連絡帳や樟蔭の有効活用により、単位修得率が80%以上を達成。進路意識も向上。 ・スクーリングを通して、多様性を認め他者を尊重する態度の育成に一定の成果が見られ、生徒の約80%以上が学校生活に肯定的である。 ・職員の働き方改革が進んでおり、ワークライフバランスの両立は確かなものである。 ・「ICT活用のさらなる高度化」による個別最適な学びの提供と、生徒一人ひとりのウェルビーイングを高める学校づくりを継続する。
----------------------	---